

令和4年度 第3回 新津小中学校運営協議会

令和5年2月21日(火) 14:00~16:00

会場：新津小学校南校舎1階会議室

<次第>

(司会：新津小教頭)

1 開会

2 会長挨拶

(中村会長)

3 校長挨拶

(新津小中校長)

4 議長の選出

5 前回会議録確認

6 熟議

(司会：議長)

(1) 学校関係者評価

・自己評価(子供・保護者・教職員のアンケートの結果及び、その分析結果と改善策等)の結果について説明

・学校の説明を受け、改善策について熟議

(2) 学校運営協議会の自己評価

・学校運営協議会の取組についての振り返り

(3) 来年度の学校運営の基本方針の説明

(4) 夢育やらまいかCS加算分の報告

7 連絡

(司会：新津小教頭、記録：CSディレクター)

(1) 次年度第1回 令和5年 5月 9日(火) 14:00~16:00 会場：新津小

第2回 令和5年 6月30日(金) 14:00~16:00 会場：新津中

第3回 令和5年10月18日(水) 14:00~16:00 会場：新津中

第4回 令和6年 2月 2日(金) 14:00~16:00 会場：新津小

(2) 会長・副会長の確認

(3) 次回の議長の選出

(4) 次回の熟議内容の確認

(5) その他

8 閉会

浜松市立新津小中学校運営協議会委員

(令和4年4月～令和7年3月)

No.	氏名	ふりがな	種別	性別	肩書等
1	中村 和則	なかむら かずのり	1	男	自治会連合会 会長 小沢渡町西自治会 会長 南区協議会委員 他
2	徳井 悟	とくい さとる	1	男	新津中学校区青少年健全育成会 会長 小沢渡町自治会 会長
3	深津 正樹	ふかつ まさき	2	男	R4年度新津小PTA 会長
4	大石 陽子	おおいし ようこ	2	女	R4年度新津小PTA 副会長
5	下位 彰吾	しもい しょうご	2	男	R3年度新津小PTA 会長 R4年度新津小PTA 顧問
6	赤堀 則之	あかほり のりゆき	2	男	R4年度新津中PTA 会長
7	水谷 裕美	みずたに ゆみ	2	女	R4年度新津中PTA 副会長
8	松田 真紀子	まつだ まきこ	2	女	R4年度新津中PTA 副会長
9	澤根 緑	さわね みどり	1	女	南区協議会委員 民生児童委員 会長
10	阿部 まゆみ	あべ まゆみ	1	女	主任児童委員 (小学校)
11	松田 哲	まつだ さとし	1	男	主任児童委員 (中学校)
12	内山 真由美	うちやま まゆみ	3	女	新津地区社会福祉協議会 ボランティア部長

【規則種別】 ※ 1～3は、必ず1人以上を選定する。

- 1 地域住民 (自治会役員等)
- 2 保護者 (PTA役員等)
- 3 対象学校の運営に資する活動を行う者 (学校支援CD等)
- 4 その他、校長が適当と認める者。

浜松市立新津小中学校運営協議会 オブザーバー

No.	氏名	ふりがな	性別	肩書等
1	黒田 豊	くろだ ゆたか	男	浜松市議会議員
2	松本 拓也	まつもと たくや	男	新津協働センター コミュニティスクール担当

浜松市立新津小中学校運営協議会 学校職員

No.	新津小学校	No.	新津中学校
1	山下 博之 (校長)	1	平野 敦子 (校長)
2	古橋 智一 (教頭)	2	池野 弘昭 (教頭)
3	森 英仁 (CS担当教職員)	3	倉知 恵理 (CS担当教職員)
4	二宮 千穂 (CSディレクター)	5	青木 潤子 (CSディレクター)

浜松市教育委員会 教育総務課

鈴木 陽子 (指導主事)

令和4年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立新津小・中学校運営協議会長

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- 学力や不登校等の生活面、事前に見学させていただいた校内の雰囲気も含めて、学校が取り組んでいることへの理解、これから必要なことについて熟議した。特に、教員の時間的な余裕のない労働環境については、生徒たちの悩みなど、人格形成に必要な相談対応していく負担となっており、改善すべきとの声が多かった。
- 協議会に参加することで、学校教育の現状について知ることができた。人材不足や課題が多い中で教員の働き方改革、学力向上のためにできること、不登校や言葉が理解できない生徒への対応等、共有していきたい事案が多くあった。
- 全ての委員が学校運営方針、及び小・中学校の現状について理解しようとし、委員が他の委員の意見を制することなくそれぞれを尊重した関係ができています。

<評価項目2> 学校運営に資する活動について熟議を進めることができたか。

- 現場の教員の負担が軽減できるような仕組みを考えたい。子供主体で学べるサポートの仕方や、適したアドバイザーの人材探しが課題。現状から子供ができることを見付け、そこに家庭・地域が加わり、一緒に積み上げていけたらと希望する。
- 地域と連携した活動がもたらす子供たちへのメリットを多く感じる。生きていくことの意味やどう生きたいか、そのために今何を知り、学ぶべきか等、夢をもって生きる子になってほしいし、その気づきやきっかけがつけられる支援ができるように考えたい。
- 津波避難で中学校の屋上を見学したが、地域住民が避難できる広さではない。小学校は水と防災食があるが中学校はないよう。地域の方が避難するときには水・食料・日用品持参が必須であることが改めてわかった。

<評価項目3> 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）

- 学校と地域のパイプ役となるべき人材が必須であると考え。できれば両方の状況を把握しやすい立場の方をお願いできれば、より地域の力を生かせるのではないかと考える。
- 外国籍児童の日本語教育や不登校児の支援は必要。外国籍児童への日本語教育は教員以外でもできるようにしていく、不登校期間中のタブレット貸出しによる自主学習ができないかの提案をしていきたい。
- 今年度は、委員がCSについて理解することに主眼を置き、委員同士が意見を出し合える関係づくりが大切である。そして、CSの活動を具現化するコーディネーターの選出をすすめ、来年度はCSの効果をひとつでも残すことができればよいと思う。